Ko-shi Nayotake Kai Official Report 2019

2019年　高思若竹会会報
6月29～30日＠山中湖畔「ほりのや」

コンテンツ一覧

1. 高思若竹会について
2. 2019年概要
   (1) 全体概要
   (2) 大学近況報告（吉村学部長）
   (3) 活動報告（S63 卒：椎野さん）
   (4) 出席者一覧
3. 寄稿
   (1) 吉村学部長（S59年卒）
   (2) 東山さん＆ご家族（S47年卒）
   (3) 池田さん（S51年卒）
   (4) 竹内さん（H6年卒）
4. 番外編（懇親会他）＆次回の予定

今年度のみどころ♪

MIDOKORO

吉村学部長に
出席いただきました♪

椎野さんの労働衛生に
対する熱き想い！

東山さん一家に
ご参加頂きました♪

安藤さんは今年も
ジャイアンツ！？

＜会員の皆様へ＞
会員以外の卒業生で、当会への参加にご興味のある方がいらっしゃいましたら、本誌にて当会をご紹介頂きますと共に、事務局までご連絡頂けますと幸いです

1. 高思若竹会について

■「若竹会（なよたけかい）」について

故山本武彦名誉教授の環境衛生学ゼミナールの卒業生で構成され、昭和34年の卒業生を筆頭に会員数140名のＯＢ会になります。現役だけでなく卒業生も大事にする故山本武彦先生の考え方により、環境衛生学ゼミナールを先生が担当された当初からこの会が設立されています。先生の名前に因んで、「竹」の字を採用し、「若竹会（なよたけかい）」と名付けられ、毎年欠かすことなく、春に総会を開催し、最後の総会では50回を数えた会になります。

■「高思会（こうしかい）」について

順大生の進路は、教員が多く、卒後の交流や組織も活発に活動しており、社会的にも大学に対しても強い影響力を持っていた一方で、企業への就職者は人数が少ない状況でした。そうした中、企業OBが少しずつ増えてきたこともあり、情報交換や結束を強めていくため、また、後輩たちの就職支援を含めた大学との交流を深めるために、昭和46年に横浜新子安の居酒屋に数名が集まって発足させたのがこの会の始まりです。

会の名称は、在学中から企業への就職・卒業後に至るまでお世話になった故山本武彦先生に「高思会（こうしかい）」と名付けて頂き、総会には、毎回大学関係者をお招きし、過去には宮崎寛明元学長、片山　仁元学長、東　俊郎元学部長、千葉久三元学部長、黒田善雄元学部長、青木純一郎元学部長、北森義明元学部長、澤木啓祐元学部長、島内憲夫元学部長ほか大学の主要な方々にもご出席頂いております。総会では、会員相互の情報交換や勉強会を行い、それぞれの業務に役立ててきました。

■「高思若竹会（こうしなよたけかい）」について

平成22年、故山本武彦先生の１周忌を機会に、更なる発展を目指して「若竹会」と「高思会」を合併して「こうしなよたけかい」として発足しています。

＜役員（2019年7月時点）＞

会長	黒谷一郎（S51卒）			
副会長	齋藤慎也（S57卒）	三浦章宏（S57卒）		
顧問	久我　正（S36卒）	五十嵐孝悳（S36卒）	竹内　啓（S36卒）	橋本隆弘（S41卒）
	井上　温（S42卒）	安部　健（S43卒）	安藤　進（S46卒）	
幹事長	平井広巳（S46卒）			
幹事	佐久間康一（S45卒）	熊谷　健（S58卒）	平　容久（S60卒）	椎野恭司（S63卒）
	鈴木　安（H3卒）	姉歯　克（H3卒）	菅谷高志（H17卒）	

会に参加を希望される卒業生がおりましたら、お声かけ頂きますと共に、幹事までご連絡頂けますと幸甚です。

2. 2019年実施概要

(1)全体概要

・ 4年連続「ほりのや」にて総会を開催しました
 -**「ほりのや」は順天堂OGのご実家！**毎年ながら、サービス、コスパ共に最高です。
・総会参加者は昨年23名→本年32名にご参加頂きました
 -昨年に引き続き、あいにくの雨天となりましたが、**東山さんがご参加**されることもあり、多くの方々にご参加頂きました。（＊天気に関しては雨男がいる気がします・・）
・今年度は**吉村学部長にご参加頂き**、大学の近況報告を始め、情報交換させて頂きました。
・活動報告は**椎野さん（S63年卒）より、労働衛生に対する熱き想い**を語って頂きました。
・安藤さんは予想に反し、普通の服装でした

(2)大学近況報告（吉村学部長）

・今年度は5学部で**1300～1400名の学生規模となり、入学式も大がかり**になってきた。
・大学としての経営状況も改善してきており、大学としての人気が出てきた。
・現在は**OBのご子息に加え、その孫が入る時代になっていることや、男女比が６：４**になっているなど、昔の環境とは相当違う状況になっている。
・お茶の水キャンパスにファサード（昔の順天堂と同じ建物）建築予定、また、体操館は粉じんが舞わないシステムを導入しており、時間があれば是非見て欲しい。

吉村学部長からの近況報告

・**企業就職を希望する学生も増えており、皆様の力添えを是非お願いしたい。**
 ＊吉村先生から寄稿を頂いておりますので、そちらもご覧ください

(3)活動報告（S63年卒椎野さん）

【自己紹介】
・環境衛生ゼミを経て、日本ビクターに入社、衛生管理業務に長年携わる。
・ビクター退職後、**労働衛生コンサルタント資格を取得しコンサルタントして活躍。**
・そもそも企業就職を希望しており、**山本ゼミに自ら志望して入った変わり者。**

【衛生管理業務について】
・衛生管理業務は、衛生管理者の資格、役割などが法令で決められているが、**衛生管理に関する法要求年々高まり**つつある。
・労災発生を防ぐための安全衛生活動を推進するのが衛生管理者の大きな役目

椎野さんからの活動報告

【現在の衛生管理業務の課題他】
・大手企業の場合、安全の専門部署がありスペシャリストとして育つが、そうした企業が少なくなっていることに加え、安全衛生の部署がなくなり、兼務してやることも増え、また、**定期的な異動により社内にノウハウが蓄積できないなどの課題**がある。

2. 2019年実施概要

【現在の衛生管理業務の課題他（つづき）】

・中小企業の場合、届け出などの基本事項はやるが、本来目的にそった活動がされないという課題、例を挙げると、**選任された衛生管理者は一生懸命だが、何をしていいかわからない**まま、結果として安全衛生の位置づけが低くなってしまう。

・事業活動における安全衛生管理は、企業にリスクを発生させないことが重要で、**健全な労働力の確保など、安全衛生として事業貢献することが基本**だが、コンプライアンス、人材確保、ISOの取引要件化の事業貢献によって、その位置づけは上がっていく。

・こうした活動は、**経営者が安全衛生活動の理解を進めることが重要で、外部にいる自分の立場から、こうした部分に貢献していきたい**が、そのためには、もっと仲間（コンサルタント他）を増やしていく必要があると思っている。

・順天堂大学、**学生に対して我々としてできることとしては、衛生管理者という選択肢として、就活支援をしていく**ことと考えている。安部さん、井上さんをはじめとした先輩方が紡いできたことを、今ならまだ間に合うが、このままでは、途切れてしまう。その前にどうにかできるように、進めていきたいと考えている。

【参加者からの主な意見/コメント＊意見が多数ございましたので要約させて頂きました】

・教職につけない学生が企業就職するケースもあり、順大生の強みという意味でも、衛生管理者は魅力になり得る。**就職の幅を広げる意味でも衛生管理者資格を大学側もこだわって、実践的なものにしてほしい。そのための支援は惜しみなくしていきたい。**

・安全衛生活動の定着のために、マネジメントシステムがあるが、それでもなかなかすぐには変わっていかない状況。行政から見ても、ハードルは相当高いが、大きなインパクトを伝えていく必要がある（健康経営で攻めるなども有効）。

・**従来は職業性疾病の予防が衛生管理者の役割だったが、働き方改革あたりまでできる衛生管理者でないと存在感がなくなってきている部分もある。**

・学校においても衛生管理を求められるが、企業と同じで、衛生委員会などの基本的部分に加え、働き方改革の部分も含めてやっていく必要ありと感じた。

・自身の経験として、衛生管理者でスペシャリストとして仕事をしたのは約3年で、やはり会社経営上で、スペシャリストとしてだけの給料は払えないのが現状で、**衛生管理だけでなく、様々なことを身につけていく必要がある。**

・衛生管理者として入社してはいるが、そののちに、人事関連への移動、中には総務部長や工場長などを歴任してきた者もおり、マルチに育っていくことが重要。

・衛生管理だけで今後の企業就職や、企業活動を攻めていくことは非常に難しいと思うので衛生をベースに様々な力をつけていくことが必要。

＊椎野さんの衛生管理への熱い想いをお話頂き、参加メンバーからもたくさんの意見が出ました。社会要求も大きく変わってくる中で、衛生管理、衛生管理者のあるべき姿や、また企業の中での関わり方が変わってくる中で、我々にできることは何か？ということを考えさせられました。

(4)2019年度出席者

No.	卒年		氏　名
1	S	59	吉村 雅文
2	S	36	久我 正
3	S	36	光永 英彦
4	S	36	竹内 啓
5	S	36	五十嵐 孝悳
6	S	42	井上 温
7	S	42	奈良 一郎
8	S	44	星 忠美
9	S	46	遠藤 佐久郎
10	S	46	安藤 進
11	S	46	平井 廣巳
12	S	47	東山 薫
13			奥様
14			お嬢様
15	S	47	在田 宗悟
16	S	48	大木 一夫

No.	卒年		氏　名
17	S	51	小林 英利
18	S	51	黒谷 一郎
19	S	51	池田 厚史
20	S	57	三浦 章宏
21	S	57	齋藤 慎也
22	S	58	熊谷 健
23	S	60	平 容久
24	S	63	椎野 恭司
25	H	1	宮地 秀行
26	H	2	鈴木 安
27	H	3	姉歯 克
28	H	4	鈴村 剛
29	H	6	竹内 保男
30	H	6	遠藤 優
31	H	8	碓井 英輔
32	H	11	西口 亮浩

2019年高思若竹会集合写真@ほりのや

3. 寄稿①：吉村学部長（S59年卒）

「令和元年度　高思若竹会に参加して」

本年4月に順天堂大学スポーツ健康科学部の学部長を拝命いたしました吉村です。
3月下旬に蹴球部の先輩である三浦章宏さん、さくら会の役員としてご活躍されている椎野恭司さんから高思若竹会のご案内を頂き、大変失礼な話ですがその存在を初めて知り、是非参加したいと思いお邪魔させて頂きました。

大変印象的だったのは、昭和36年卒業の久我正さん、光永英彦さん、竹内啓さん、五十嵐孝悳さん達の熱い熱い「武さん」話でした。「武さん」は大変厳しく、やや変わったところもない訳ではありませんが、また、今の時代では考えられないことも多々ありましたが、学生に真正面から向き合い、成長させるために大変熱心であったこと、さらに学科の発展を願い、衛生管理者として企業に優秀な人材を輩出することに多大なるご尽力をされたこと等々、大変貴重な、そして愉快な話をたくさん聞かせて頂きました。まさしく順天堂大学の礎を築かれた先生と先輩方の歴史を垣間見ることができたと共に、今のスポーツ健康科学部に「武さん」のように学生と共に将来を考え、ゼミ活動や学生生活を構築している先生は存在しているのか、本当に「武さん」のように志を持って学生教育に携わっている先生はいるのか大変疑問になりました。そのような時代があり、そのような先生が存在し、そこで育った人たちが年に一度集まった中で世代を問わず親交を重ねる、そんな卒業生の会が、今の順天堂を様々な側面から支援して頂いているということを、心から感謝したいと思います。

大学は激変の時代です。少子化に伴い学生募集を中止する大学、合併を余儀なくされる大学、生き残りをかけて各大学様々な工夫と努力が大きな課題となっています。大学を支えるベースは教員が学生と信頼関係を構築できるのか、教員が学生と真摯に向き合う姿勢を持っているかどうか、「武さん」のように志を持った教員の存在と育成が高等教育機関としてのベースであることを、改めて認識させていただいた良い機会となりました。

平成12年に当時の学部長である故北森義明教授に順天堂大学に戻らないかとお誘いを受けてから早20年、蹴球部の強化、学生教育、研究活動、大学院生の論文指導が自分の仕事であると脇目も振らず邁進して参りましたが、立場が変わり、学部運営の責任者として、学生はもちろんですが、卒業生の方々の活動やご支援に目を向ける機会を持ち、広い視野を持って取り組んでいきたいと改めて感じている次第です。今後さらなる学部の発展のために何が重要かを考える良い機会、そして、美味しいお酒と食事を堪能させて頂き、私にとって大変有意義な時間を過ごすことができました、心から感謝申し上げます。

最後に、高思若竹会の発展、ご参集されました皆様のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。

PS　会場の「ほりのや」さんが、卒業生のご実家なんて本当にびっくりです！

3. 寄稿②：東山薫さん＆ご家族（S47卒）

「生きるということ　～研究室で過ごした記憶と共に～　高思若竹会総会に寄せて」

生きているということ
いま生きているということ
　（中略）
人は愛するということ
あなたの手のぬくみ
いのちということ

これは私が６年生を担任していた時に使用していた国語科の教科書に掲載されていた、谷川俊太郎さんの有名な詩「生きる」の一部です。最高学年になった喜びや決意を感じさせるように教科書の冒頭部に引用されたり、あるいは卒業を目前にした児童への「はなむけ」として教科書の最後に使われたりしていました。

高思若竹会の会員の皆様ご無沙汰をしております。私は、記憶は定かではないのですが今年の総会に約10年振りに出席致しました。前回出席したのは武彦先生の奥様がお出でになられた時だったと思います。

今回何故出席したのかと言いますと、今年は令和元年の会であり、丁度満70才を迎えたからです。2017年（平成29年）1月に下咽頭癌の手術を致しました。それはほぼ15時間に及ぶもので、食道の全摘出、胃の3分の2摘出、空腸の一部を吻合し、胃の代りをするというものでした。その時に声帯も切除され声を失いました。術後ICUでの一週間は地獄でした。一年後肺癌が見つかり（転移ではありません）治療の副作用による肺炎で入院したりして、リハビリを続けながら今を生きているところです。今、自分の健康状態を考えて、今回が最後かなと思い、今迄お世話になった先輩諸氏や後輩にお会いしたいと思ったからです。私一人での参加は無理と思い妻同伴の事を事務局の姉歯さんに尋ねたところ、誠意ある対応をして頂きました。ところがそれを聞き及んだ長女（医師をしています）が是非付き添いで行きたいと言い、再度姉歯さんに連絡した所OKのご判断を頂いたので厚かましくも家族3人で参加させてもらう事になりました。

私は本学卒業生の平谷澄先生（昭和36年卒業）のご指導を受け入学いたしました。入学当時から何の目的もなく講義室と啓心寮との往復でしたが、夏休み後武彦先生の研究室に顔を出したのがきっかけで（どうしてそうなったのかはっきりと覚えていません）武彦先生から研究室（当時は公衆衛生第一研究室、通称一研）に来るように命じられたのがそもそもの始まりでした。その頃は、一学年上に遠藤佐久郎さん、2学年上に佐久間さん、福井さん、西川さん、3学年上に桑島さんがおられました。そして正式に（？）入室したのは私が2年の4月で、その時は助手に越沼さん（後にというか本来の岡安さんに戻られました）と前述の3名の4年生、3年生には遠藤さんに加え、新たに安藤さん、曽我部さん、高野さん、葉田さんが入室されました。

その後体育学部に大学院が設置され（昭和46年）私はその2期生として入学し、2年後無事修了して研究室の助手として残る事になりました。因みに、1期生として高野さんが修了後助手として残っておられました。

私は家の事情で3年間務めた後退職して岡山の実家に帰りました。父親が体調を崩し、実家での地区との付き合いや墓の管理等々の為、そんな道を選択せざるを得なかったのです。今から40数年前に現在の社会状況を先取りしていたことになります(笑)

研究室にいた9年間、先輩諸氏、後輩の方々との交友や友情が多々ありました。そもそもこの会の前身は研究室の卒業生を祝福、激励していた若竹会でした。従って会場は主に神奈川県の行政や企業に就職された先輩のご努力で、箱根で開催されていたものだったと記憶しています。そして若竹会当日は武彦先生一流の高級品好みの三越で購入された記念品が贈呈されていて、私の時は高価な牛革のベルトだったと思います。

今こうやって当時の記憶を思い返してみると多くの人達の当時の姿が甦って、改めて自分一人では生きてくることが出来なかったのではないかと思い、人と人とのつながりを感じざるを得ません。私がハンディを背負ってきたこの3年間、今迄に気付かなかった自分ファーストの人が驚くほど多いのにびっくりしています。しかし今回の総会に参加して、私に対しての温かい心遣いや視線はとても優しいものだと感じ、これが同窓ということなのだと強く思い、今更ながら嬉しくなりました。

現在私は世間に対して何も貢献できていません。できることは人を愛するということだけです。そしてこの与えられた命を大切にしてその想いを次の世代に伝えることだと強く思っています。

最近冒頭の谷川俊太郎さんの「生きる」という詩を6年生の児童に教えている自分自身の姿をよく思い浮かべます。今だったらもっと異なった理解をしたり、違った観点からの意味も考えられたりしたのかと後悔もしています。又何故か、早くして世を去った長男の夢もよく見るようになりました。どうしてでしょうか。これから考えていきたいと思っています。

3. 寄稿②：東山薫さん＆ご家族（S47卒）

思い出は尽きません。市原市の学童検診、船橋食品の冷凍寿司の細菌検査、健康管理研究協議会の事務局の仕事、学生食堂の従業員の皆様の検便、東京電気化学工業（TDK）環境調査、星さんが勤められていた第一製パンの水質検査等々・・・。特に忘れ難いのは初場所千秋楽、蔵前国技館のマス席での大相撲観戦です。武彦先生と私達学生3名の計4名で楽しく過ごしたことです。お土産に当時の横綱のしこ名が入った湯呑みを頂きました。そして後楽園球場での読売ジャイアンツ戦の観戦です。

事務局の姉歯さんには今回の事では大変お世話になり、言葉では言い尽くせない程の感謝の念で一杯です。この会に参加する最後の私の気持ちを手紙で差し上げたところ、関係のある方々に連絡をして下さり、側面からの協力を頂きました。お陰様で思い残すこと無く最後を務めることができたと思います。

最後になりますが、これからの本会の益々のご発展を心から祈念しております。

この度は家族で参加し、皆様に温かく迎えて頂き有難うございました。

部外者と言っても全く縁が無い訳ではなく、娘は順天堂医院で働きながら博士課程を修了し、主人の母校愛を理解したようです。

私は、主人が大学院1年の夏に結婚し、仕送りの身なのにすぐ妊娠しての貧乏生活で、山本先生ご夫妻には何かとお気遣い頂きました。長男は大雨の日に順天堂医院で産まれました。今ではそんな事は無いそうですが、当時職員の家族と言う事で費用の大幅な割引が有難かった事と、研修医の実習で、子宮の収縮を調べる為何度もお腹を押され、とても痛かった事を記憶しています

大学の色んな催しや、部活練習見学に息子を連れて行くと、学生や職員の方に可愛がって頂き、私も育児からひと時解放されて息をつきました。大学祭の時、副寮監だった主人が御輿に乗り水をかけられながら習志野の町を練る姿は今でも目に浮かびます。山本先生は当時は夜遅くまで研究室で過ごされ、主人の帰りが毎日遅く、アパートの人達から仕事を水商売だと思われていたり、階段を上がる足音で目が覚めると文句を言われ、裸足で２階に上がったりもしました。お正月の箱根駅伝は、着物姿で出発地点に応援に行き、東京農大の大根踊りにびっくりしました。今でも毎年テレビの前で応援しています。岡山の地元では３日はお寺のお年賀詣りになっていて、いつも私だけで参ります。この事はご住職様も心得て下さっています。

もう一度箱根で応援して、竹内さんのお店でお蕎麦を食べたいと常々言っております。今では娘がそれを実現させたいと言ってくれていますが、順天堂の頑張りを期待しています。

大学院を卒業し研究室に残っていましたが、父の具合が悪く、先生の止めるのを振り切って帰郷したのが、主人にとってはとても心残りだったようです。１９９８年(平成１０年)、安藤さん、福井さん、私達夫婦で山本先生ご夫妻の北海道旅行のお供をしましたが、途中で福井さんはご親戚の不幸があり、安藤さんはお仕事の都合で、結局私達４人だけでのレンタカーの旅となりました。主人はその時、少し手がご不自由だった先生の背中を流し、恩返しの真似事が出来たと、とても嬉しそうでした。霧で見えない国後島や択捉島に向かって大声で叫ばれていたり、カラオケで軍歌を次々歌われる先生のお姿に、いつもと違う先生を見る事が出来ました。書き綴っていると懐かしい思い出が溢れてきます。

今回私は研修会には参加せず、宴会からでしたが、若い時から積み重ねて来られた知識や経験を退職後も活かし社会貢献されている皆様の話を伺い、御立派な生き様を、ただただうなずいて聞かせて頂きました。又、主人が皆様のお仲間である事に誇りを覚えました。娘もそんな父親を改めて見直したことでしょう。お店のオーナー様にも、数々のご馳走を用意して頂き感謝しています。すべてを食べきれなかった事、申し訳なく思っています。お許しください。

参加は車で行くと主人が言い、４５年前の記憶から不安で色々ルートを調べたりしましたが、何とかスムーズに着くことができ、高速道路が良くなっている事を実感しました。帰りは娘が岡山まで同行してくれ、あの霧の中も何とか無事に帰ってこられました。主人は大分疲れたらしく「今度は新幹線で行く」と言っております。

姉歯様はじめ参加の皆様には大変親切に、又お心配りをして頂き心より感謝しております。

私が唯一心残りなのは、大好きな富士山が２日とも見られなかった事です。来年又参加出来たらその時こそはと楽しみにしています。　　東山和子

若竹会の名前は幼いころから耳にしておりましたが、自分も参加させて頂く日が来るとは夢にも思っていませんでした。父が病気とはいえ、家族での参加を許して頂き、本当にありがとうございました。岡山の生活では全く知らなかった父の若い頃の話を聞かせて頂き、またとても楽しく嬉しそうな父の顔を見ることができ、母にとっても私にとっても忘れられない一日となりました。諸先輩方のお話を、とても楽しくまた興味深く聞かせて頂きました。四十にして惑わず、といいますが、まだまだ悩むことの多い日々を過ごしております。六十にして耳順、七十にして従心、を体現されている先輩方とお会いすることができ、順天堂卒業生として改めて気が引き締まる思いが致しました。このような機会を与えて頂き本当にありがとうございました。　　畑涼子

3. 寄稿③：池田厚史さん（S51年卒）

「高思若竹会に参加しての感想」

早いもので大学を卒業して43年があっという間にたち、65歳を迎え年金受給者の一員となってしまいました。高思若竹会事務局から案内を毎年いただくのですが、今までは現場の公園管理業務の関係から土日や祝日もローテーションで勤務をしていたためになかなか高思若竹会に参加できませんでしたが、今年の3月に東京都公園協会を定年で退職して、公園での施設維持管理や植栽管理の経験から縁あって4月から東京工業大学の非常勤事務支援員として勤務することとなりフルタイムではありませんが、土日祝は休みのため今回参加することができました。

総会当日の6月29日（土）から30日（日）は、ぐずついた天候でしたが、多くの方にお会いでき、有意義な時間を過ごさせていただき、この会をセッティングいただいた黒谷会長はじめ事務局の方々にお礼申し上げます。

総会は、規約改正はなく、幹事や役員改選は役員が留任されることで、会計報告の承認でスムースに終了した後、吉村学部長先生に大学の近況を教えていただき、びっくりしました。

自分がいたころの大学は小ぢんまりとしており、学生も少なかったために、同学年の学生とは1度は顔を合わせたことがあったと思いますが、状況は大きく変わり多くの学生がいると卒業まで合わない人もいるのではないかと思いましたが、順天堂の伝統を守り、多くのフィールドで学生が活躍できる環境が整備されているとのことで、若干羨ましくも感じました。

情報提供として、労働衛生コンサルタントの椎野さんより「衛生管理者の現状と課題」と題した話しがあり、参加者からの質問や意見にもありましたが、企業の中で衛生管理や健康管理が独立した部署や経営者の理解やサポートがあれば衛生管理者の力量が大いに発揮できると思いますが、実際は難しいところがあると感じました。

私自身も卒業して日産自動車に入社させていただいて、横浜工場の安全衛生管理課で衛生管理者としてスタートしました。（労基局での衛生管理者申請受付は同期の小林さん）その時は衛生管理担当が私を含め3人（昭49卒の中野先輩も在籍）おり、転勤で九州工場の安全衛生管理課に異動したときは、業務補助の女性を除くと実質3人で安全管理、衛生管理、安全衛生教育などを担当し衛生管理業務のウエイトは必然的に少なくなったのが実情です。その後も追浜工場、栃木工場と転勤しましたが、衛生管理の専任担当ではなく兼務の業務として対応していました。

特に衛生管理は、やってもやってもきりがなく、結果がすぐに見えにくいために推進するには実際の現場の理解と協力がないと成り立たないと思います。そのためには十分な知識を持って、関係する部署や担当者に説明し、理解してもらえるコミュニケーション能力や交渉能力が必要で、経験を積んでくることで、これらの能力は養えると思います。

衛生管理関連の業務から離れてかれこれ20年になりますが、衛生管理業務で養った今までの経験から、いろいろな業務の萬雑用処理ができる便利屋のようになり、業務の幅が広がり今の仕事に繋がっているのでないかと思っています。よって、個人的には柔軟な対応ができることが重要ではないかと思います。

堅い話の後は、いつもながらの和気あいあいとした懇親会で、体育会系の合宿所としても利用される「ほりのや」さんの料理は量が多く、もうこの年になると食べきれずに手を付けられないものも沢山ありました。（量を少なくしてもいいのでは・・・？）

懇親会の中でのいろいろな話の中で、自分としては学生時代の懐かしい話として教育実習の話をしたときは、何十年も眠っていた記憶がよみがえり、まだボケは始まっていないと思いました。

中締め時に恒例のスクラム円陣を組んでの校歌斉唱は、中学や高校の校歌の歌詞が出てこないのに順大校歌の歌詞はすんなり出てくるのがいつも不思議です。

部屋を移しての二次会も何時もの寝る時間がとっくに過ぎているのに不思議と目がさえており、時間を忘れていました。このような先輩後輩が忌憚のない意見交換として話せる場所があることはありがたく思います。

今後もできる限り参加させていただきたいと思っています。2日間、皆様お疲れさまでした。ありがとうございました。

最後に大学からタオルや今はやりの携帯扇風機をお土産として頂戴し、熱中症対策で、早速使用させていただこうと思います。

3. 寄稿④：竹内保男さん（H6年卒）

「若竹会から高思若竹会まで」

今年は、2年ぶりの参加で、仕事の関係もあり到着が21時過ぎになってしまいました。総会と講演も欠席での寄稿となりましたので、私の若竹会参加と高思若竹会参加を中心に書かせて頂きます。

私は、平成6年3月の体育学部健康学科卒業で若竹会の最後の会員です。山本武彦先生が平成5年3月に退職をされましたので1年間だけですが環境衛生学ゼミナールに在籍させて頂きました。

若竹会の最初の参加は、平成9年4月の箱根強羅です。福井の大野地区消防署で勤務をしていましたので福井からの参加となりました。会長は、竹内さんで暖かく迎えて下さいました。帰りは竹内さんに小田原駅まで送って頂いたように思います。その後の参加は、「あいち健康プラザ」で行われた平成13年4月の若竹会です。安部さんの紹介で購入した日産ルキノに乗って福井から参加したように思います。

平成14年4月からは、消防署を退職して順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科博士前期課程に進みました。進学の際、山本先生に相談したところ、私のことを指導教授の南谷先生に紹介するためだけに本郷まで来て下さいました。

大学院修了後は、平成18年3月まで母校の湘央生命科学技術専門学校の専任教員、平成18年4月からは、帝京大学で教員として勤務しています。

平成19年3月には、順天堂スポーツ医学会で講演を頼まれ、その講演を聞きに山本先生が来て下さいました。直後に、「最後のゼミ員の仕事を見届けることは、私の仕事」と書かれた研究についての励ましの手紙を頂きました。その手紙は、今でも大切に保存しています。

高思若竹会は、平成23年から参加しています。平成28年は、「救急法」の講演をさせて頂きました。その際には、私が執筆しました「みんなの救急」を紹介させて頂きました。

順天堂大学では、平成19年から非常勤講師と実習を担当しています。今年も前期は「スポーツ障害の予防とリハビリテーション実習」の中で一次救命処置の実習を、後期は、「救急法実習」を担当しており、後期は毎週木曜日にさくらキャンパスに出講しています。母校で非常勤講師として授業を担当できることに感謝しています。箱根駅伝は、宮地さん、（平成25年に失踪事件を起こした）鈴木安さん、私の同期の遠藤さん、大谷さんと平成28年より恵明学園前で応援しています。井上さんの号令で毎年横断幕やのぼりの準備を行っています。来年の応援場所は未定ですが、できる限り応援に参加したいと思っています。

高思若竹会の現在の課題は、新入会員の獲得と会員の総会への参加ということになるかと思います。今年は、碓井さん、西口さんが参加して下さいました。若手の参加に感謝します。今年は、菅谷さんの姿がなかったのが寂しかったです。来年は、千葉開催となりそうですので、成田さんを誘って是非とも参加してほしいものです。私が、2011年から参加できているのも同期の遠藤さんのお陰です。

このところ開催できていませんが、鈴木安さん、遠藤さんと「順天堂高思若竹会若手会」と称して会を開催し、高思若竹会総会に参加する新メンバーを我々も募っているところです。若手会には、いつも三浦さんを始め諸先輩方が参加してくださっています。田町で開催した際には、特別に黒谷会長にも参加頂きました。鈴木安さん、遠藤さんと共に永久幹事として継続して開催して行きたいと思います。参加を希望する方がいらっしゃいましたら永久幹事まで連絡をお願いします。

4. 番外編（懇親会他）＆次回の予定

定番の懇親会での校歌！東山さん一家も一緒に歌って頂きました

楽しい宴は深夜まで続きました♪

大嶽部屋、、ではなく
井上門下生です(^^)/

安藤さん今年は普通でした
（写真は2015年）

多少お疲れ気味です

今年も皆さんで楽しい時間を過ごすことができました！
毎年のことですが・・・
校歌を歌うと先輩も後輩も一つになりますね！

＜2020年度の開催予定について＞
東京オリンピック開催に伴い、秋ごろの開催を＆さくらキャンパスでの開催を検討中です。詳細は別途ご案内しますので、乞うご期待！